

吉野山で見られる植物の紹介<草本類>

多年草

1年草

2年草

その他

ハンゴンソウ



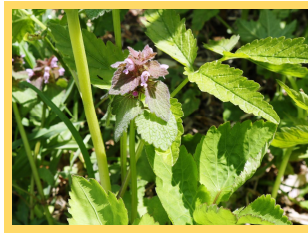
【キク科キオン属】
葉をちぎると春菊やヨモギのような独特の香りを感じる。葉の形はハロウィンのゴーストのよう。草丈は2mを超えるものもある。

ヒトリシズカ



【センリョウ科チャラン属】
近縁種の「フタリシズカ」は花序が2つだが、ヒトリシズカはブラシ状の花序が1本伸びる。葉に鋭鋸歯あり。古くは「吉野静」と呼ばれた。

ヒメオドリコソウ



【シソ科オドリコソウ属】
茎頂の包葉が紫紅色を帯びる。オドリコソウと同属だが背丈・葉・花の大きさが半分以下で小さいため「姫」がついた。

ヒメジョオン



【キク科ムカシヨモギ属】
ハルジオンとは初夏に開花時期が重なる。ハルジオンの蕾は下向きが多いがこれは下を向かない。「姫女菀」は小さい中国産野草の意。

ヒメシラスゲ



【カヤツリグサ科スゲ属】
直立する茎の先端に円柱状の小穂が集団でつく。花茎は真っ直ぐに立ち、上部はざらつく。2017年以降は確認されていない。

ヒメスイバ



【タデ科ギンギシ属】
葉に酸味があるため家畜はあまり食べない。近縁種の「スイバ」のように食べることができるがシュウ酸を含むため大量摂取は禁物。

ヒメヘビイチゴ



【バラ科キジムシロ属】
3出複葉(5出複葉はオヘビイチゴ)。葉の裏面には葉脈に沿って長い毛がある。ヘビイチゴより姿が小さいためこの名がある。

ヒレハリソウ



【ムラサキ科ヒレハリソウ属】
英名は「コンフリー」。夏に垂れ下がって咲く淡紅色の花から「玻璃草」とも呼ばれる。2022年10月のみで観察。

ヒヨドリバナ



【キク科ヒヨドリバナ属】
ヒヨドリが鳴く頃に開花することからの和名。よく似る「フジバカマ」は葉が3裂するが「ヒヨドリバナ」は裂けない。葉の裏面に腺点。

フクジュソウ



【キンポウゲ科フクジュソウ属】
旧暦の正月に開花するため「ガンジツソウ」「ガンタンソウ」と呼ばれる。早春に黄色い花を咲かせる。日の当たる場所に群生する。

ブタクサ



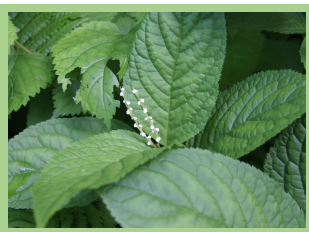
【キク科ブタクサ属】
花粉症の原因として知られる風媒花で花粉の飛散距離は小さい。地味な黄緑色の小花を穂状に集まって咲かせる。北米原産。

ブタナ



【キク科エゾコウゾリナ属】
1933年に札幌市近郊で初めて発見された当時は「タンポポモドキ」と命名されていた。原産地フランスでは「豚のサラダ」の名前。

フタリシズカ



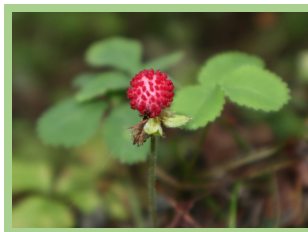
【センリョウ科チャラン属】
2本の花序を能楽「二人静」の静御前の霊と、憑依された菜摘女との舞姿に例えたことから。別名「及己(つきねぐさ)」。

ベニバナイチヤクソウ



【ツツジ科イチヤクソウ属】
傷や虫刺されに効く薬草になる。「ベニバナ」のつかないものは白い花をつける。2023年5月に蕾を初観察。

ヘビイチゴ



【バラ科キジムシロ属】
蛇がいそうなところに生育するという説から。近種の「ヤブヘビイチゴ」より花床に強い光沢がない。「ドクイチゴ」とも言うが無毒。

ヘラオオバコ



【オオバコ科オオバコ属】
葉がへらのような形をしていることから。北海道には多く見られる。花粉症の原因植物となる。2016年9月に確認されたのみ。

吉野山で見られる植物の紹介<草本類>

多年草

1年草

2年草

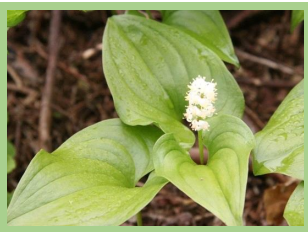
その他

ホウチャクソウ



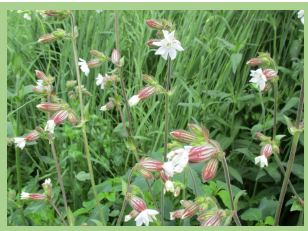
【イヌサフラン科チゴユリ属】
寺院などの軒先の四隅に吊り下げられた飾りが垂れ下がる花に似ていることからつけられた。「チゴユリ」と自然交配することがある。

マイヅルソウ



【キジカクシ科マイヅルソウ属】 広がる二枚の葉が、羽を広げる鶴の様子に見立てた。葉は大きな楕円のハート形で、微細な鋸歯あり。春に小さい白い花をつける。

マツヨイセンノウ



【ナデシコ科マンテマ属】
明治時代に鑑賞用で移入された帰化植物。香りの良い白い花を夕方～夜に開花させることから「待宵」。茎や葉に粘毛が生える。

ミスヒキ



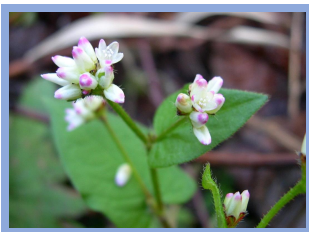
【タデ科イヌタデ属】
紅白に見える花序が水引(祝儀の際の飾り)に似ていることから。小花の色は上半分が赤色で下半分が白色。種は熟すと飛ぶ。

マムシグサ



【サトイモ科テンナンショウ属】 紫褐色の模様がマムシに似ていることから。花は筒状の変形した葉とともに「仏炎苞」と呼ばれる(サトイモ科の特徴)。

ミソソバ



【タデ科タデ属】
花姿が金平糖に似ることから「コンバイトウグサ」、葉形が牛の頭に似るため「ウシノヒタイ」とも呼ばれる。花は根元が白で先端は薄紅色。

マルバヒレアザミ



【キク科アザミ属】
津軽地方と道南地方の特産。葉に切れ込みがなく茎に翼(ヒレ)があることから。翼に沿って棘がある。夏に淡紅紫色の花を咲かせる。

ミソホオズキ



【ハエドクソウ科ミソホオズキ属】 萼(がく)に包まれた果実の様子がホオズキに似ることから。「オオバミソホオズキ」は茎は分枝せず葉柄がない。

ミズタマソウ



【アカバナ科ミズタマソウ属】
毛の生えた果実が水玉を思わせる。茎に下向きの細毛が生えているため、似る「タニタデ」とは見分けがつく。

ミツバツチグリ



【バラ科キジムシロ属】
「ツチグリ(愛知県以西に生育)」に似ているのが名の由来。根茎が太く塊状になる。小葉は3枚。2018年以降は観察されていない。

COLUMN <ピックアップ マイヅルソウ&マムシグサ>

「マイヅルソウ」は日本でも全国の山地に広く分布しており、北日本から南西日本に行くにしたがって葉が小さくなることが知られています。

北海道では15cmにもなる見事な葉を目にすることができますが、本州・四国・九州では3~4cmという小さな葉になり、縄文杉で有名な屋久島(鹿児島県)にいたっては、葉は1cmにも満たなくなるといいます。

また、広がりをもった群落をなして生育していることが多く、これは「マイヅルソウ」が細長い地下茎を網の目のように広げて増えていく性質をもつためです。



マイヅルソウの群落



秋には赤い実がなるので「丹頂鶴」とも



マムシのような模様



スッと立つマムシグサ

「マムシグサ」の最大の特徴は、紫色または紫褐色と白色が混ざり合った茎のまだら模様で、マムシの模様に似ていることからこの名がついています。

開花時期には苞葉も緑色に白色の筋がついた縞模様になるので特に目立ちます。さらに、秋には鮮やかな赤色をした果実が粒のまばらなトウモロコシ状につくため、薄暗い林内でもはっきりわかります。

テンナンショウ属は雌雄異株のものも多く、サトイモ科の中では性分化の最も進んだ仲間であり、栄養条件などによって雌株にも雄株にもなるといえます。



吉野山で見られる植物の紹介<草本類>

多年草

1年草

2年草

その他

ミツバフウロ



【フウロソウ科フウロソウ属】
別名「フシダカフウロ」は目立つ節から。葉は3深裂。よく似る「ゲンノショウコ」(→5裂)と見分けられる。薄紫色の花が上向きにつく。

ミツモトソウ



【バラ科キジムシロ属】
別名「ミナモトソウ」のとおりに水源のような所に生える。全部の葉が3枚なので、似る「エゾノミツモトソウ」(下の葉が5小葉)と見分ける。

ミネアザミ



【キク科アザミ属】
津軽と道南地方にしかない固有種。茎頂に紅紫色の花が上向きに咲く。葉柄の基部は茎を抱く。「オオイワアザミ」の別名がある。

ミミコウモリ



【キコ科コウモリソウ属】
葉柄の基部が茎を抱くようすを「耳」とし、葉の形がコウモリに似ていることから。筒状の白い花が斜め下向きに咲く。

ミミナグサ



【ナデシコ科ミミナグサ属】
細長い楕円形の葉がネズミの耳の形に似ていることから。萼(がく)が花びらと花びらの間から覗いている。春に白い花を咲かせる。

ミヤマエンレイソウ



【シュロソウ科エンレイソウ属】
エンレイソウは紫褐色の花を咲かせる一方で、これは白い花なので「シロバナエンレイソウ」の別名がある。

ミヤマスマレ



【スミレ科スミレ属】
葉が卵円形であることや側弁が無毛であることが同色系スミレとの見分けるポイントになる。2018年以降は未確認。

ミヤマトウバナ



【シソ科トウバナ属】
高山に生え、輪生した花穂が塔のように何層にもなることから。「イヌトウバナ」の変種。花は白く、口唇形(シソ科特有)。

ミヤマナルコユリ



【キジカクシ科アマドコロ属】
花が垂れ下がった様子を田で鳥を追い払う鳴子に例えた。「ミヤマ」としているが平地でも観察できる。筒状の白い花がつく。

ミヤマニガウリ



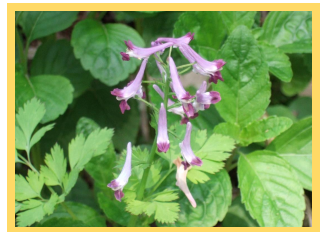
【ウリ科ミヤマニガウリ属】
深山に生え、ニガウリに似ていることからの和名。雄性両性異株(両性花のみをつける個体と雄花のみをつける個体がある)。

ミヤマヤブタバコ



【キク科ガンクビソウ属】
俯く頭花がキセルの雁首に似ている様から「ガンクビヤブタバコ」とも。「ノッポロガンクビソウ」とは下部の葉柄に翼がないことで区別。

ムラサキケマン



【ケシ科キケマン属】
花形が仏具の華鬘に似ていることから。直射日光の当たらない場所に生育する。有毒で山菜のシャクと葉形が似ているため注意。

COLUMN <アズマヒキガエル>

「アズマヒキガエル」は北海道にもともと生息していませんでしたが、近年は多く見られるようになり、植生観察会でも散見されるようになった北海道指定外来種です。

アリなどの虫やエゾアカガエルのオタマジャクシを捕食する天敵と言われています。

※ 触ったら必ず手洗い
(耳腺などから出す
白い液は毒)



メドハギ



【マメ科ハギ属】
萩の仲間だがひょろっと立ち枝分かれして束状になった姿は独特。中国や韓国では「メドハギ茶」として飲まれる。

メマツヨイグサ



【アカバナ科マツヨイグサ属】
原産地のアメリカでは傷の治療に利用されていた。昼間は閉じているが夕方～早朝に黄色い花が咲く。中国名では「月見草」。

吉野山で見られる植物の紹介<草本類>

多年草

1年草

2年草

その他

モミジガサ



【キク科コウモリソウ属】
垂れた状態からモミジのような葉が開くことにちなむ。東北地方では「山菜の王様」として若葉や茎を食用にする。別名「シドケ」。

ヤエムグラ



【アカネ科ヤエムグラ属】
ムグラ(葎)とは草むらや藪に植物が茂るとの意で、よく群生することから。小さい白~黄緑色の花が咲く。種子はひつつき虫の性質。

ヤブジラミ



【セリ科ヤブジラミ属】
和名の由来は藪に生え、鉤状に曲がった刺毛により果実が衣服につきやすい様子をシラミに例えたもの。葉は2~3回羽状複葉。

ヤブタバコ



【キク科ガンクビソウ属】
タバコに似た葉をつける茎の先端から横に伸びる枝を長く伸ばし、多数の葉と黄色の花を並べる独特の姿。頭花にほとんど柄がない。

ヤブニンジン



【セリ科ヤブニンジン属】
和名は葉がニンジンに似て藪に生えることから。中央に雄花、周りに両性花をつける。葉は2回3出羽状複葉。別名「ナガジラミ」。

ヤブハギ



【マメ科ヌスビトハギ属】
細長い花序に小さなピンクの花をつける草本。「ヌスビトハギ」によく似るが、「ヤブハギ」の葉は茎の一か所に集中してつく。

ヤブマメ



【マメ科ヤブマメ属】
和名は藪の植物と群生していたためと言われている。アイヌは地下の果実を米や粟と一緒に炊き食用にしていた。閉鎖花も結実する。

ヤマニガナ



【キク科アキノノゲン属】
あまり横に広がることなく多くの濃い黄色の花を上向きにつける。葉は茎を抱かないので「ハナニガナ」と区別できる。

ヤマハハコ



【キク科ヤマハハコ属】
夏に茎の上部に淡黄色の頭花を散房状につける。白いカサカサした花びら状のものは総苞片。雌雄異株。葉は無柄で茎に互生する。

ヤマブキショウマ



【バラ科ヤマブキショウマ属】
ヤマブキの葉に似ることから。葉や花がトリアショウマに似る。若芽のうちは茎の色や茎先で見分ける。

ユキザサ



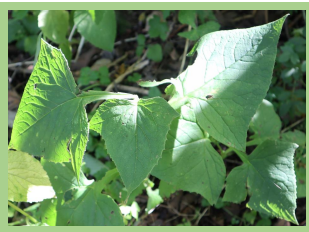
【ユリ科マイヅルソウ属】
白い花を「雪」に例え、葉は「笹」に似ていることから。初夏に白い小さな両性花をつける。茎や葉の裏、花序と花柄にも粗い毛がある。

ヨツバヒヨドリ



【キク科ヒヨドリバナ属】
ヒヨドリバナの仲間通常は葉が4輪生することに由来(実際には3~7個と幅がある)。2015年、2016年のみ観察。

ヨブスマソウ



【キク科コウモリソウ属】
「ヨブスマ」は「コウモリ」や「ムササビ」の意で、葉の形から。直立し1mを超える大ききにも。夏から秋にかけて白い小花を多数咲かせる。

ヨモギ



【キク科ヨモギ属】
昔から薬草としてもぐさや漢方薬の原料とされ、また料理や餅に入れられるなど様々な用途があった。「ハーブの女王」とも呼ばれる。

ルイヨウショウマ



【キンポウゲ科ルイヨウショウマ属】
湿った場所に生育し、果実は黒く熟する。雄しべが長く突出。葉が「サラシナショウマ」に似ることから。白い花が集まってつく。

ルイヨウボタン



【メギ科ルイヨウボタン属】
葉の形がボタンの葉に似ることからの和名。春~夏に茎頂に集散花序を出す。黄緑色の花びらに見えるのは萼(がく)が変化したものの。

吉野山で見られる植物の紹介<木本類>

高木

低木

つる

アオダモ



【モクセイ科トネリコ属】
樹木ガイドブック
16ページを参照。



イタヤカエテ



【ムクロジ科カエデ属】
樹木ガイドブック
20ページを参照。



イチイ



【イチイ科イチイ属】
樹木ガイドブック
1ページを参照。



イボタノキ



【モクセイ科イボタノキ属】
樹木ガイドブック
46ページを参照。



イワガラミ



【アジサイ科アジサイ属】
つるから気根を生じ大きな岩や木に絡まりながら育つことからの和名。小さな両性花が集まる花序の周りに白色の装飾花が縁取る。

ウダイカンバ



【カバノキ科カバノキ属】
樹木ガイドブック
30ページを参照。



ウリノキ



【ミズキ科ウリノキ属】
樹木ガイドブック
23ページを参照。



ウワミズザクラ



【バラ科ウワミズザクラ属】
サクラらしからぬ白い小さな花が房状にたくさんつく。樹皮を傷つけると独特な香り。葉は互生で棘状の鋸歯がある。

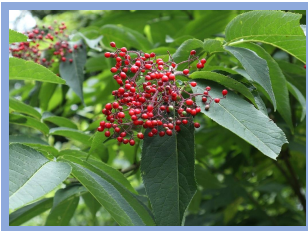
エゾアジサイ



【アジサイ科アジサイ属】
樹木ガイドブック
40ページを参照。



エゾニワトコ



【レンプクソウ科ニワトコ属】
樹木ガイドブック
16ページを参照。



エゾヤマザクラ



【バラ科サクラ属】
樹木ガイドブック
28ページを参照。



エゾヤマハギ



【マメ科ハギ属】
樹木ガイドブック
12ページを参照。



COLUMN <樹木ガイドブック>

説明文中にある「樹木ガイドブック」は、北海道森林管理局 駒ヶ岳・大沼森林ふれあい推進センターが、道南で観察される樹木を中心に収録・作成した冊子で、毎年七飯町西大沼にて実施している「樹木博士認定会」で活用されています。



エビガライチゴ



【バラ科キイチゴ属】
つる状に成長する低木。初夏に枝先に円錐花序をつける。果実は食用(ジャムなど)。葉の裏側が白く見えるため「ウラジロイチゴ」とも。

吉野山で見られる植物の紹介<木本類>

高木

低木

つる

オオカメノキ



【ガマズミ科ガマズミ属】
樹木ガイドブック
44ページを参照。

オオバクロモジ



【クスノキ科クロモジ属】
樹木ガイドブック
41ページを参照。



オオモミジ



【ムクロジ科カエデ属】
樹木ガイドブック
19ページを参照。



オニグルミ



【クルミ科クルミ属】
樹木ガイドブック
9ページを参照。



オノエヤナギ



【ヤナギ科ヤナギ属】
樹木ガイドブック
37ページを参照。

オヒョウ



【ニレ科ニレ属】
樹木ガイドブック
24ページを参照。



カシワ



【ブナ科コナラ属】
樹木ガイドブック
26ページを参照。



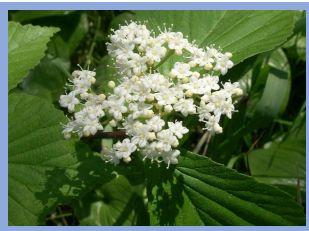
カツラ



【カツラ科カツラ属】
樹木ガイドブック
33ページを参照。



ガマズミ



【ガマズミ科ガマズミ属】
落葉広葉樹の低木。春に小さな白花が平頭状に咲く。果実は食用。葉は対生で細鋸歯。材は丈夫なので鎌や鋏などの柄に利用される。

カラマツ



【マツ科カラマツ属】
樹木ガイドブック
3ページを参照。



カンボク



【ガマズミ科ガマズミ属】
落葉広葉樹の低木～小高木。葉は枝に対生し3本の葉脈が目立つ。先端は尖り全縁。材は香りがあるため楊枝の材料に使われてきた。

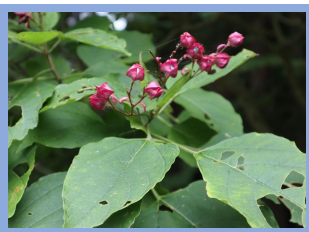
キタコブシ



【モクレン科モクレン属】
樹木ガイドブック
35ページを参照。



クサギ



【シソ科クサギ属】
樹木ガイドブック
39ページを参照。



クマイチゴ



【バラ科キイチゴ属】
落葉広葉樹の低木で半つる性。枝には棘が多い。単葉で裏葉にも棘。不揃いの鋸歯。赤く熟した果実は食用でジャムやジュースになる。

クリ



【ブナ科クリ属】
樹木ガイドブック
36ページを参照。



ケヤマハンノキ



【カバノキ科ハンノキ属】
樹木ガイドブック
31ページを参照。



吉野山で見られる植物の紹介<木本類>

高木

低木

つる

コシアブラ



【ウコギ科コシアブラ属】
樹木ガイドブック
18ページを参照。



コマユミ



【ニシキギ科ニシキギ属】
樹木ガイドブック
43ページを参照。

サルトリイバラ



【サルトリイバラ科シオデ属】
落葉つる性の多年生植物。
「サルも思うように動けない」ほど茎に棘がある。葉は互生、くつきりした3~5本の葉脈が葉先で合流する。

サルナシ



【マタタビ科マタタビ属】
樹木ガイドブック
54ページを参照。

サウゲルミ



【クルミ科サウゲルミ属】
樹木ガイドブック
9ページを参照。



サンショウ



【ミカン科サンショウ属】
樹木ガイドブック
17ページを参照。



シウリザクラ



【バラ科ウワミズザクラ属】
樹木ガイドブック
28ページを参照。



シナノキ



【アオイ科シナノキ属】
樹木ガイドブック
31ページを参照。



シラカンバ



【カバノキ科カバノキ属】
樹木ガイドブック
29ページを参照。



ダケカンバ



【カバノキ科カバノキ属】
樹木ガイドブック
30ページを参照。



タニウツギ



【スイカズラ科タニウツギ属】
樹木ガイドブック
41ページを参照。

タラノキ



【ウコギ科タラノキ属】
樹木ガイドブック
10ページを参照。



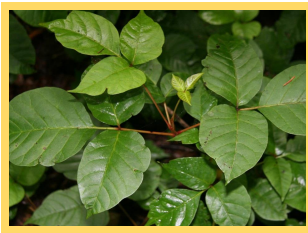
チョウセンゴミシ



【マツブサ科マツブサ属】
落葉性のつる性木本。果実は五味子と呼ばれ滋養強壯の薬。波状鋸歯。江戸時代に生薬として果実を朝鮮から輸入していたことに由来。



ツタウルシ



【ウルシ科ウルシ属】
樹木ガイドブック
56ページを参照。

ツリバナ



【ニシキギ科ニシキギ属】
樹木ガイドブック
42ページを参照。



ツルアジサイ



【アジサイ科アジサイ属】
樹木ガイドブック
53ページを参照。

吉野山で見られる植物の紹介<木本類>

高木

低木

つる

ツルウメモドキ



【ニシキギ科ツルウメモドキ属】 落葉つるの性木本で他の植物に絡みつく。葉は互生で浅い鋸歯、波型で丸い形。「ウメモドキ」に似ることから。

ツルシキミ



【ミカン科ミヤマシキミ属】 樹木ガイドブック 47ページを参照。

ツルマサキ



【ニシキギ科ニシキギ属】 樹木ガイドブック 55ページを参照。

ドイツウヒ



【マツ科トウヒ属】 樹木ガイドブック 3ページを参照。



トチノキ



【ムクロジ科トチノキ属】 樹木ガイドブック 18ページを参照。



トドマツ



【マツ科モミ属】 樹木ガイドブック 2ページを参照。



ナナカマド



【バラ科ナナカマド属】 樹木ガイドブック 11ページを参照。



ナワシロイチゴ



【バラ科キイチゴ属】 落葉広葉樹の低木。「苗代」とあるように田の畔にも生える。葉は互生、3出複葉または羽状複葉。縁は粗い二重鋸歯、果実は生食。

ニガキ



【ニガキ科ニガキ属】 樹木ガイドブック 14ページを参照。



ヌルテ



【ウルシ科ヌルテ属】 樹木ガイドブック 14ページを参照。

ノイバラ



【バラ科バラ属】 落葉性のつるの性低木。野生の棘が由来。葉はバラ科特有の奇数羽状複葉で互生、細かい鋸歯。花は香料原料。果実も食用や薬用。

ノリウツギ



【アジサイ科アジサイ属】 樹木ガイドブック 40ページを参照。



ハイヌガヤ



【イヌガヤ科イヌガヤ属】 樹木ガイドブック 1ページを参照。



ハウチワカエテ



【ムクロジ科カエテ属】 樹木ガイドブック 19ページを参照。



ハリギリ



【ウコギ科ハリギリ属】 樹木ガイドブック 22ページを参照。



ハルニレ



【ニレ科ニレ属】 樹木ガイドブック 33ページを参照。



吉野山で見られる植物の紹介<木本類>

高木

低木

つる

ヒメアオキ



【ガリア科アオキ属】
樹木ガイドブック
48ページを参照。



フッキソウ



【ツゲ科フッキソウ属】
樹木ガイドブック
47ページを参照。

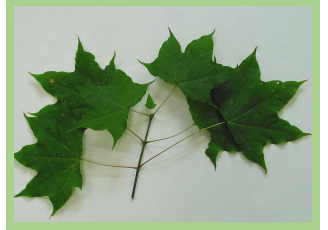
ブナ



【ブナ科ブナ属】
樹木ガイドブック
26ページを参照。



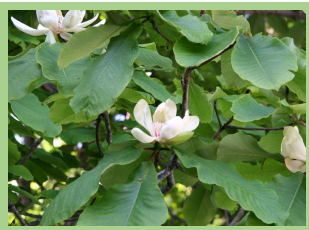
ベニイタヤ



【ムクロジ科カエデ属】
樹木ガイドブック
20ページを参照。



ホオノキ



【モクレン科モクレン属】
樹木ガイドブック
34ページを参照。

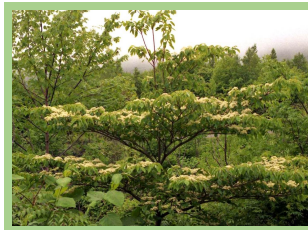


マタタビ



【マタタビ科マタタビ属】
樹木ガイドブック
54ページを参照。

ミズキ



【ミズキ科ミズキ属】
樹木ガイドブック
35ページを参照。



ミズナラ



【ブナ科コナラ属】
樹木ガイドブック
25ページを参照。



ミツバウツギ



【ミツバウツギ科ミツバウツギ属】
落葉広葉樹の低木。小葉が3枚でウツギに似た白い花をつける。葉は対生で細鋸歯。新芽や若葉は食用。



ミヤマガマズミ



【レンプクソウ科ガマズミ属】
樹木ガイドブック
44ページを参照。

ミヤマハンノキ



【カバノキ科ハンノキ属】
樹木ガイドブック
50ページを参照。

ミヤママタタビ



【マタタビ科マタタビ属】
樹木ガイドブック
54ページを参照。

ムラサキシキブ



【シソ科ムラサキシキブ属】
樹木ガイドブック
39ページを参照。

ヤマウルシ



【ウルシ科ウルシ属】
樹木ガイドブック
13ページを参照。



ヤマグワ



【クワ科クワ属】
樹木ガイドブック
24ページを参照。



ヤマブドウ



【ブドウ科ブドウ属】
樹木ガイドブック
53ページを参照。